識語の沙州大秦寺と開元八年五月二日の日附とについては、後に述べることとする。

一二　大秦景教宣元至本經殘卷

この殘卷は、經卷の末に當る30行の斷簡で、その中、最初の1行は下半部にたゞ五字だけを存し、第28行には、「大秦景教宣元至本經一卷」といふ經題を記し、29 30の兩行に開元五年十月廿六日に、教徒の張駒が沙州大秦寺で傳寫したといふ識語を有してゐる。これも全文正楷で書かれ、逐錄すると次の通りである。（前掲參看）

殘簡中には二三字畫の疑はしいものもある、即ち7行21行の「復」11行の「倭姜」、17行の「從」、24行の「勗」、26行の「沙」の如きはそれであり、また誤寫かと思はれるものに、5行及び10行の「丙」、24行及び25行の「㐌」の如きがある。何れも假りに旁記の如くに讀んでみた。12行の字旁に?をつけたのは、所藏者小島氏が原本について試みた推讀である。なほ2行目下から八字目の殘畫は「聖」字の殘りらしくその上の缺字は「大」字で、「大聖法王」と續いてゐたのであらうと思ふ。

殘簡の內容は、景教の「道」なるものを說いたのであり、その簡潔な本文について說明の註解を加へ、さうして本文と註解とを連接して書き續けたものに外ならぬ。即ち3—4の「妙道能包ニ容萬物之奧ニ」は本文で、それに續「道者ハ」から、6の「故爲ニ物靈府ニ也」はその註解、續く6—7の「善人之寶ナリ」は本文で、7の「信レ道ヲ善人」から、8の「能寶而貴レ之ヲ」まではその註解、續く10—11の「夫美言可ニ以市レ人ニ、尊行可ニ以加ニ人ニ」は本文で、「不信善之徒」から、14の「明ニ」まではその註解、續く10—11の「夫美言可ニ以市レ人ニ、尊行可ニ以加ニ人ニ」は本文で、「不信善之徒」から、14の